

溝は8条見ついています。概ね、北東-南西に走向するものと、北西-南東に走向するものの2つに分けられます。建物の向きに平行ないしは直交しています。溝3は、北西側の建物群を区画していたものと考えられます。

溝2の中には段差が見られ、段階的に拡幅が行われたと推測しています。また、一部は浅く掘られており、土橋のような高まりが断続的に存在します。

溝1と溝2は、上幅が約2mで約18mの間隔があります。溝は側溝で、溝の間は道かもしれません。

2条の溝は、北西方向は六日野集落へ、南東方向は堀越集落へと向かっています。

秋頃に溝が真っ直ぐ延びているのかどうかを、ボーリング調査をする予定です。



溝1



溝2

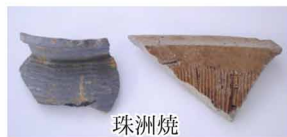
### 5. 出土した遺物

土師質土器・珠洲焼・越前焼・瀬戸焼・朝鮮雑釉、瓦質香炉、風炉、青磁碗や皿・白磁碗・などの輸入磁器、曲物や漆器碗などの木製品、銭や刀子などの金属製品が出土しました。遺物の多くは、井戸と溝から出土しています。

木製品は空気が遮断された地下深くから出土することが多く、曲物や漆器は井戸から出土しています。そのほか、鉄滓や羽口が出土しており、鍛冶を行っていたことをうかがわせる遺物が出土しています。出土した土器は、今から約650～700年前頃の室町時代のものがほとんどで、営まれた時代は15世紀後半頃であることが分かりました。



白磁・朝鮮陶器



珠洲焼



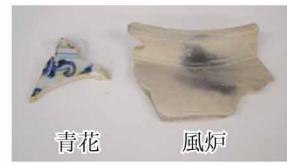
漆器



青磁



瀬戸焼



青花

風炉

### 6. まとめ

遺跡の性格は明確ではありませんが、輸入磁器や香炉・風炉などが出土していることから、庶民よりも位の高い人がいた可能性があり、物資のやりとりが多い場所であったのではないかと考えています。

今後、更に検討していきます。



遺構配置図  
S=1/800

